

中央発條株式会社

証券コード：5992

CHUHATSU
CHUO SPRING CO.,LTD.

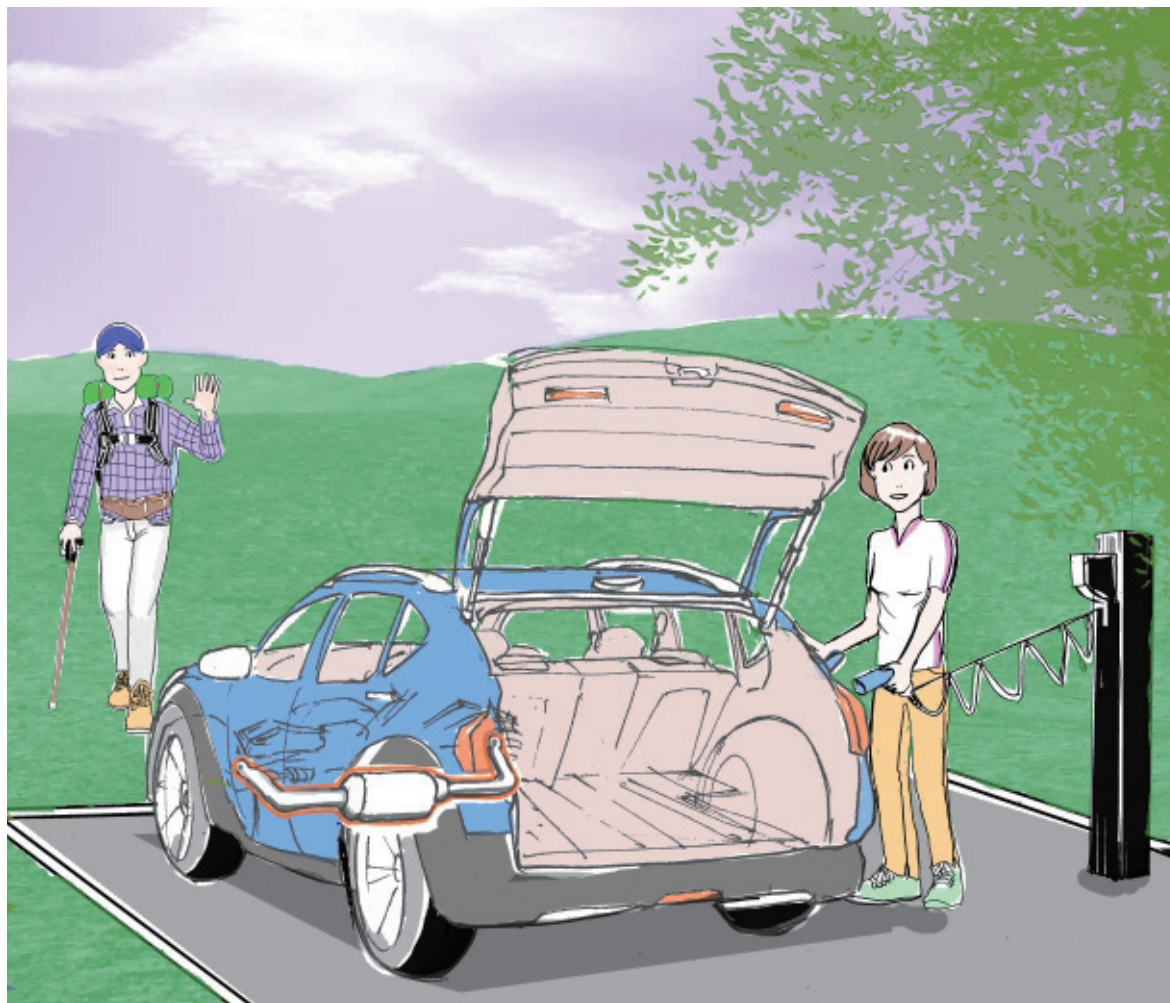


第101期 報告書

2023年4月1日 ▶ 2024年3月31日

CONNECT WITH THE NEXT.

「その技術で次なるステージへ」



技術と情熱が創り出す価値ある商品を未来へ世界へ

株主の皆様へ

平素より格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

ここに、第101期報告書をお届けするにあたり謹んでごあいさつ申し上げます。

Q1

業績を含めた2023年度の
振り返りをお願いします。

主要なお客様の自動車生産台数は、海外での景気減速の影響や第4四半期に一部の取引先における出荷停止の影響を受けたものの、通期を通じて国内の堅調な需要に支えられ、グローバル全体では増加し、売上高は過去最高となりました。

営業利益は、売上高の増加及び合理化改善による増益影響が、新製品開発に対する研究開発費及び従業員の昇給を含めた人的投資などの「意志ある固定費」、藤岡工場における事故影響などのコスト増を吸収し、増益となりました。

鋼材・資材・物流費及び動力光熱費等のインフレ影響は前年度高騰した分の影響も含め大きな減益圧力となりましたが、お客様との適正な売価反映交渉が国内、海外において実現でき、結果、ほぼ全てのインフレ影響を相殺する事ができました。

第4四半期の急激な生産台数変動に対する生産性ロスを最小限に抑えながら、中長期経営計画で掲げていた製品の高付加価値化として新技術を搭載した新製品スタビライザの量産開始による収益性の向上に加え、グローバルにおけるエンジニアリング調達改善強化など従来の延長線上を超える原価低減を実施いたしました。

特に課題としていました北米地域が2023年度通年で黒字化を実現いたしました。

各機能単位に明確な目標を課し、着実なPDCAサイクルを実施することで事業基盤が強化されてきております。現地ローカルを主体として更なる競争力強化、自立化の取り組みを今後も実施してまいります。

併せまして、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益も増益となりました。経常利益と営業利益の差は、当社

は自己資金によるグローバルオペレーションを実施していることから、為替が円安方向に振れたため、外貨保有資金に対し営業外収益効果が出たためです。

なお、2023年度実績は通期業績見通しを全項目に対し達成しております。

また昨年10月16日に当社藤岡工場で発生した爆発事故では、株主の皆様はじめステークホルダーの皆様には、多大なるご迷惑とご心配をおかけし、深くお詫び申し上げますとともに、復旧へのご支援・ご協力を賜りましたことを心より感謝申し上げます。

今回の事故は、当社が部品メーカーとして担う役割とお客様に対する供給責任の重要性、また「安全・品質・コンプライアンス」の意識徹底について認識させられるものとなりました。物的・人的の両面から再発防止策を策定し、取り組んでまいります。

物的対策	・異常時に自動停止するシステムの拡充 ・システム制御盤の総点検 ・乾燥炉内のガス排気能力の検査増強 ・吸排フィルターの日常点検 ・乾燥炉内に未然ガス検知機設置
人的対策	・異常時の設備停止ルールの再徹底 ・安全活動の活性化 ・「安全・品質・コンプライアンス」再教育 ・現場の困りごとなど本音の対話推進

また事故の発生した10月16日を「中発安全再出発の日」と定めることで風化防止を図り、二度と同じ事故を発生させないよう全社を挙げて体質強化を図ってまいります。

Q2

2024年度の見通し、また中長期的な目線での見通しを教えてください。

主要なお客様の自動車生産台数の増加に伴い、売上高は増加すると予想しております。

一方、将来に向けた経営基盤強化のための「意志ある固定費」は2023年度に続き投下してまいります。新製品、生産能力対応のための過去最高レベルの設備投資、試験研究費の増額に加え、従業員に対する人的投資、職場環境・安全対応、SDGs関連コストを計上する予定です。

対して、製品の更なる高付加価値化、原価改善施策の強化により収益向上を図り、2024年4月25日公表通りの増収、営業利益増益計画としております。

経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、為替レートが2023年度末より円高方向に振れる前提に立ち、2023年度実現した円安による営業外収益効果が消滅する事から、減益予想としております。

今後の中長期経営計画達成に向けた努力を継続いたしますが、その大前提となるのは安全・品質・コンプライアンスの基本を徹底的に守り抜き、それを維持できる人財を育成することだと認識しております。事故の教訓を決して忘れることなく確実な成長と発展に向かい進んでまいります。

Q3

株主の皆様へメッセージをお願いいたします。

当社は2023年度に75周年を迎えました。2024年度は『100年企業』に向けてのスタートの年として、爆発事故を教訓とし、基本に立ち返ること「Back to basic」を合言葉に、今一度会社の基礎固めをする年としてまいります。これまで築いてきた、常に一步先を見据えた将来の変化に柔軟



代表取締役社長 小出 健太

かつ迅速に対応できる取組みを今後も果敢且つ確実に実行し、『社会』と『人』に優しい継続的に企業価値を高め続けられる会社づくりに邁進してまいります。

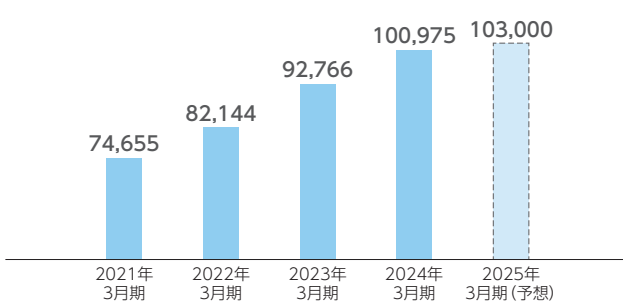
当社はこれからもモノづくりを通して社会に貢献するとともに、すべてのステークホルダーから愛される会社づくりに取り組んでまいりますので、今後とも皆様の変わらぬご支援を宜しくお願い申し上げます。

決算概要・連結業績ハイライト

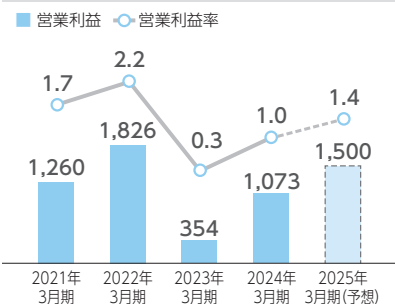
連結損益計算書(要旨) (単位:百万円)

科目	2024年3月期	2023年3月期
売上高	100,975	92,766
営業利益	1,073	354
経常利益	3,093	1,572
税金等調整前当期純利益	3,139	1,451
親会社株主に帰属する当期純利益	1,990	481

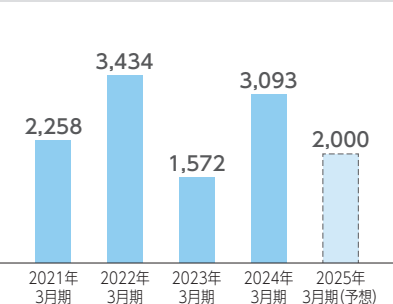
売上高 (単位:百万円)



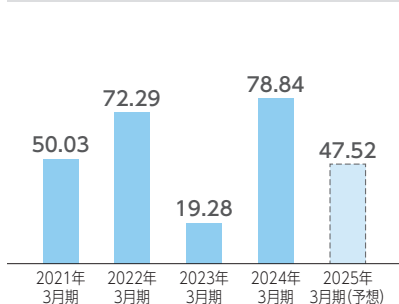
営業利益 (単位:百万円) / 営業利益率 (単位:%)



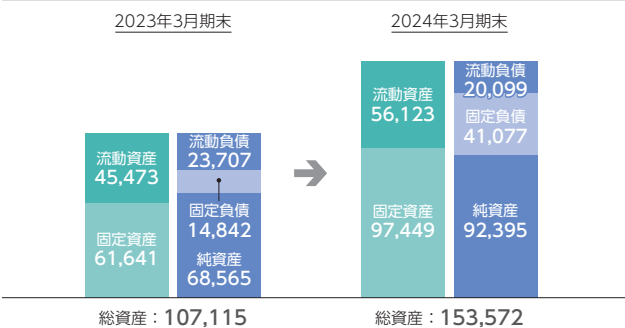
経常利益 (単位:百万円)



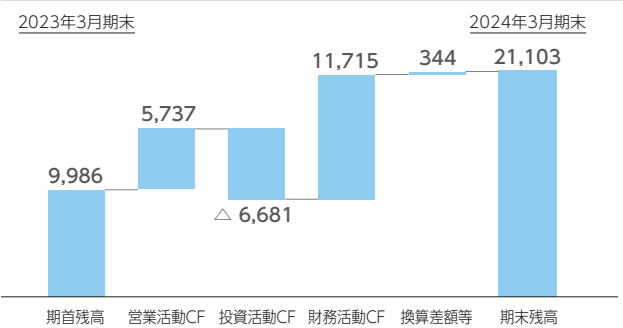
1株当たり当期純利益 (単位:円)



連結貸借対照表(要旨) (単位:百万円)



連結キャッシュ・フロー計算書(要旨) (単位:百万円)

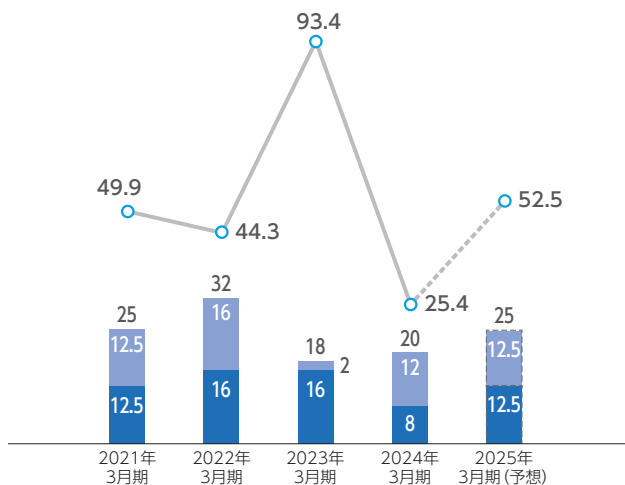


(注1) 換算為替レート 2024年3月期: 151円 / US\$ / 2025年3月期(予想): 140円 / US\$

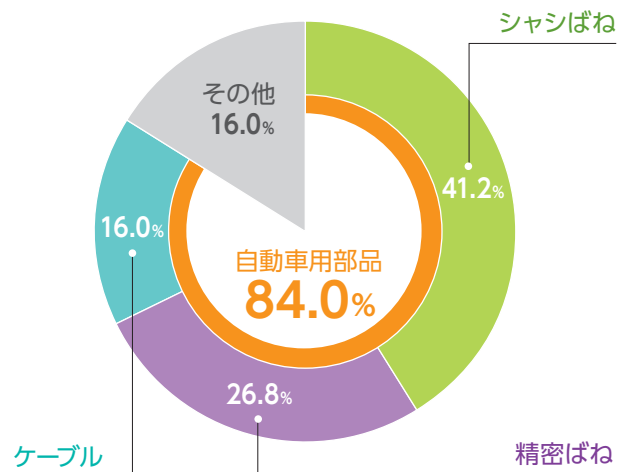
(注2) 経常利益・1株当たり当期純利益につきましては、想定為替レートが当年度末より若干円高方向に振れる前提にたち、当年度実現した大幅な円安による営業外収益効果が消滅することから減益予想としております。

1株当たり配当金 (単位: 円)

■ 中間期 ■ 期末 ○ 配当性向 (%)



製品別売上構成

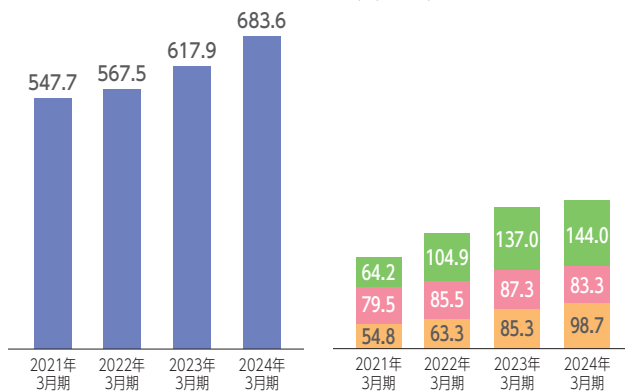


地域別セグメント売上高 (単位: 億円)

日本

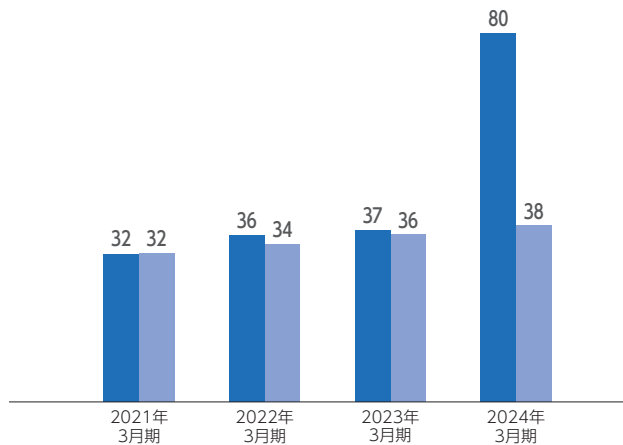
海外

■ 北米 ■ 中国 ■ アジア



設備投資／減価償却費 (単位: 億円)

■ 設備投資 ■ 減価償却費



TOPICS

● 当社の製品が新型ランドクルーザー“250”シリーズに搭載

本年4月18日にトヨタ自動車株式会社が販売を開始した新型ランドクルーザー“250”シリーズに当社新製品であるON-OFFスタビライザが採用されました。本製品はドライバー自らの意思でサスペンションの動きをコントロールできる製品です。従来スタビライザはクルマの左右輪をつなぎ、旋回時の車体の傾きを抑制するための製品ですが、SDM※はスタビライザ中央部に切替機構を有し、ボタンを押すだけでスタビライザを左右に接続、分離することを可能とします。



写真提供:トヨタ自動車株式会社

オンロードでは接続することでサスペンションの動きが抑制され安定したハンドリングを実現。オフロードでは分離することでサスペンションが伸縮しやすくなり走破性向上、さらには乗り心地向上に貢献いたします。

全世界の過酷な環境下でも作動させるため安全設計には十分配慮し開発を進め、機能性を確保しながら車両への搭載を可能とするコンパクトな設計を実現いたしました。今後は車両サイズ、お客様のニーズに合わせた製品の研究開発を進めることでバリエーションを拡大させてまいります。

※SDM…Stabilizer with Disconnection Mechanism (トヨタ商品名)

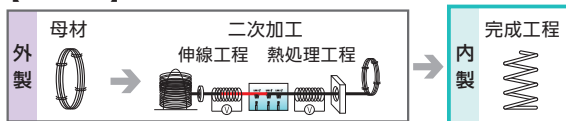
TOPICS

● 画期的な原価低減 ～モノづくり改革～

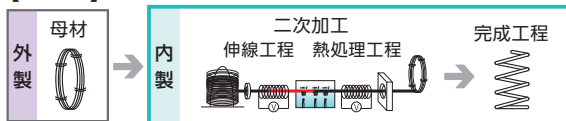
従来外部で加工し購入していたコイルばね材料を当社内で加工することにより、原材料費を大幅に低減することを実現いたしました。2024年度においても内製化に関する新たな設備投資を実施する計画があり、更なる原価低減の推進・付加価値の取り込みを進めております。

また今後は現在コイルばねで行っている二次加工内製化をスタビライザへ拡大させ、更なる原価低減に取り組んでまいります。

【Before】



【After】



TOPICS

● 非自動車分野へのビジネス拡大 ～EV対応～



スパイラルリール (技術センター設置)

本年4月に幕張メッセで開催されたエクステリア×ガーデンエキシビジョン2024にて、新型充電ケーブル収束補助装置『スパイラルリール』のお披露目を行いました。本製品は『充電をもっと快適に』をコンセプトに、電気自動車の充電に使用する充電ケーブルを地面に接触することなく、簡単・便利に収納できる製品です。従来ケーブル操作長さが3.5m仕様だったものが5.5mまで延長し、利便性を更に向上いたしました。

自動車業界は100年に一度と言われる大変革期を迎えておりますが、当社の主力製品であるシャシばねは自動車の「走る」「曲がる」「止まる」を制御するため、エネルギーソースが電動化に変化しても変わらず必要になります。その強みを活かし、①既存製品のEV車への拡販 ②EV関連新製品開発 ③EVアクセサリーの3本の柱でEV化対応を強化し、中長期経営計画の達成を目指してまいります。

TOPICS

● 健康経営優良法人3年連続獲得

本年3月11日に健康経営優良法人2024認定企業が発表され、当社は3年連続大規模法人部門に認定されました。今後も当社は、「もっと、もっと、ワクワクしたい。みんなの明日の笑顔のために～笑顔、健康、明るい職場～」を目指し、継続的な企業活動を推進し、従業員が健康であり続けられる安心・安全な職場環境づくりに取り組んで参ります。



会社概要	
設立	1948年12月25日
資本金	108億3,720万円
従業員数	連結：4,291名 単独：1,566名
製品区分	自動車用部品 (シャシばね、精密ばね、ケーブル)、 その他 (自動車用品・建築用部品他)
本社所在地	〒458-8505 名古屋市緑区鳴海町字上汐田68番地 電話 (052) 623-1111 (総合案内)
主要な事業所	本社工場 (名古屋市緑区) 碧南工場 (愛知県碧南市) 三好工場 (愛知県みよし市) 藤岡工場 (愛知県豊田市) 技術センター (愛知県みよし市) 東日本営業所 (栃木県塩谷郡高根沢町) 西日本営業所 (大阪府吹田市)

役員 (2024年6月20日現在)			
※ 取締役社長	小出 健太		
※ 取締役執行役員	米倉 浩司		
取締役執行役員	矢澤 文希		
● 取締役	安田 加奈		
● 取締役	山本 光子		
常勤監査役	間瀬 実		
◆ 監査役	山本 秀樹		
◆ 監査役	中村 元志		
◆ 監査役	脇坂 一行		
執行役員	市野 晃稔		
執行役員	渡辺 圭		
執行役員	宮田 征典		
執行役員	北浦 啓一		
(注) ※ 代表取締役 ● 社外取締役 ◆ 社外監査役			

関係会社			
国内 10社	愛知県	中発運輸株式会社 株式会社東郷ケーブル (注) 株式会社セプラス 中発精工株式会社 中発販売株式会社 株式会社リーレックス	
	岐阜県	株式会社岐阜中発	
	静岡県	株式会社エフ.イー.シーチェーン	
	長崎県	株式会社長崎中発	
	青森県	中発テクノ株式会社	
	米国	CHUHATSU NORTH AMERICA, INC.	
	台湾	中發工業股份有限公司	
	タイ	CHUHATSU (THAILAND) CO., LTD.	
	インドネシア	PT. CHUHATSU INDONESIA	
	中国	天津中発華冠機械有限公司 天津中星汽車零部件有限公司 天津隆星彈簧有限公司 昆山中発六和機械有限公司 昆山中和彈簧有限公司 孝感中発六和汽車零部件有限公司	

(注) 株式会社東郷ケーブルは2024年3月31日付で解散決議を行い清算手続きに入っております。清算の結了は第102期事業年度中を予定しております。

事業内容

当社グループは、次の製品の設計開発、製造および販売を主な事業としております。

シャシばね

足回りに使用されるばね



スタビライザ



コイルばね

NEW



ON-OFFスタビライザ追加

コントロールケーブル

レバー操作を遠隔伝達させる役割



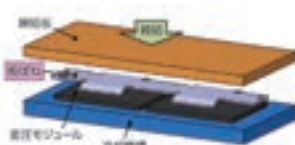
パワースライドドアケーブル

精密ばね

パワーバックドア用ばねや電装部品保持用ばね等、幅広く採用されている



植毛PBD
(パワーバックドア)用
長ばね



DC-DCコンバータ

NEW



スパイラルスプリング
追加

伸縮歩行杖
「あゆみ」追加

その他

住宅用部品、ヘルスケア部品、EV関連製品なども手掛けている



決議通知・新任監査役ご紹介・今後の株主通信提供方法について

2024年6月20日(木)開催の当社第101回定時株主総会において、下記のとおり報告ならびに決議されました。

報告事項

1. 第101期(2023年4月1日から2024年3月31日まで)事業報告の内容、連結計算書類の内容ならびに会計監査人および監査役会の連結計算書類監査結果報告の件
2. 第101期(2023年4月1日から2024年3月31日まで)計算書類の内容報告の件

決議事項

第1号議案 取締役5名選任の件

本件は、原案どおり取締役として小出健太、米倉浩司、矢澤文希、安田加奈および山本光子の5氏が選任され、それぞれ就任いたしました。

なお、安田加奈および山本光子の両氏は社外取締役であります。

第2号議案 監査役3名選任の件

本件は、原案どおり監査役として間瀬実、中村元志および脇坂一行の3氏が選任され、それぞれ就任いたしました。

なお、中村元志および脇坂一行の両氏は社外監査役であります。

第3号議案 補欠監査役1名選任の件

本件は、原案どおり補欠監査役として稲垣昭弘氏が選任されました。

新社外監査役ご紹介



当社は6月20日付で新社外監査役として、脇坂社外監査役を迎えました。
トヨタ自動車株式会社の管理職として培われた専門知識を活かし、今後当社の経営全般
に対し客観的・専門的な視点から監査いただけるものと期待しております。

新社外監査役 **脇坂 一行氏**

略歴

1999年4月 トヨタ自動車株式会社 入社
2019年9月 同社 調達企画部 第2企画室 室長
2021年3月 天津一汽トヨタ自動車 出向
2024年1月 トヨタ自動車株式会社 ボデー部品調達部 部長
2024年6月 当社 社外監査役 現在に至る

今後の株主通信提供方法について

従来、当社は事業の状況について「期末報告書」と「中間報告書」を通して年2回株主の皆様にご報告してまいりましたが、
環境負荷の低減、かつ株主様へタイムリーにお伝えするべく「中間報告書」の印刷・郵送を行わず、ホームページへの掲載の
みとさせていただきます。ご理解のほど、よろしくお願い申し上げます。

従来

中間報告書
11月下旬頃郵送



期末報告書
株主総会後に郵送



第102期以降

中間報告書
ホームページへ掲載



期末報告書
株主総会後に郵送



株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月
基準日	定時株主総会の議決権 3月31日 期末配当 3月31日 中間配当 9月30日
公告方法	電子公告 ※決算公告に代えて、貸借対照表および損益計算書は、金融商品取引法に基づく有価証券報告書等の開示書類に関する電子開示システム（EDINET）にて開示しております。
株主名簿管理人（連絡先）	三菱UFJ信託銀行株式会社 〒137-8081 東京都府中市日鋼町1-1 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-232-711（通話料無料）
単元株式数	100株
証券コード	5992
上場取引所	東京証券取引所、名古屋証券取引所

ホームページのご案内

当社に関するより詳細な情報については、当社ホームページをご覧ください。企業活動や製品に関する情報など、幅広く情報を提供しております。またIR情報ページには、業績ハイライトやこれまでの決算短信を、CSR情報ページには環境への取り組みなども掲載しております。

<https://www.chkk.co.jp/>



▲ トップページ



▲ IR情報ページ



▲ CSR情報ページ